チケット買うなら、生協へ。

KIT SHOPでは、映画をはじめ各種チケットを販売しています。
ご購入の際は是非SHOPカウンターまで。

KIT SHOP 平日 10:00-20:30
土曜 11:30-14:30

[にじのはた] 7,8,9月号
2016年7月12日発行 通巻第218号 ■制作／京都工芸繊維大学生協学生委員会広報局 ■発行／京都工芸繊維大学生活協同組合理事会 住所：〒606-0962 京都市左京区松ヶ崎御所海道町 電話：075-781-5359 ■印刷／株式会社きかんしコム

楽しくなる、予感。

NIJI no HATA
PRESENTED BY
KYOTO INSTITUTE of TECHNOLOGY
COOP STUDENT COMMITTEE
PUBLIC RELATIONS DEPARTMENT

虹の旗

Volume 218
2016.7,8,9
TAKE FREE

Cover art by TERADA Ryotaro

惰性で生きてるから、
何かを続けられないんじゃない。
惰性で生きてるから、
何か続けられるものを
見つけられないだけなのだとしたら。

――自分も、変われるのだろうか。

巻頭特集

30日間映画を見続けた人の話。

――習慣を持つということが人に与える効果

ハングオーバー!
キングスマン
心が叫びたがってるんだ。
ミニオンズ
スタンドバイミー
フィッシュストーリー
ウルトラミラクルラブストーリー
桐島、部活やめるってよ
アップサイドダウン
時をかける少女
アメリカン・スナイパー
バクマン。
2001年宇宙の旅
七人の侍
ハングオーバー!!
マエストロ!
ピース オブ ケイク
知らなすぎた男
プラダを着た悪魔
レナードの朝
世界の果ての通学路
LIFE!
リアル・スティール
サウンド・オブ・ミュージック
ピクセル
戦場のピアニスト
ドラゴンタトゥーの女
シュガー・ラッシュ
ラバー
イエスマン

楽しくなる予感。
虹の旗 Vol.218
2016.7,8,9

CONTENTS

特集
30日間映画を見続けた人の話。

03 PROLOGUE
07 THOUGHT
15 LIST

HIGHLIGHT

松ヶ崎祭
実行委員
募集中。

松ヶ崎祭実行委員会、人員募集中
やる気のある方なら誰でも大歓迎
連絡は下記のメールアドレスまで

kit.matsufes@gmail.com

30日間映画を見続けた人の話。

――――習慣を持つということが人に与える効果

Editor／Art director／Designer――――綱島卓也
Writer――――光國和宏／河西真広／打谷拓巳／井上祐輝／八木まどか／武内真之／角居風子
Illustrator――――臼倉菜々子

ベッドに横になって寝る直前、ふと考えたことがある。生まれてから20年、何かを意識的に続けた経験はあっただろうか。

→

惰性で生きてきた人生だ。その都度その都度で都合のいいように、楽に生きていけるように、刹那的に物事の断片を積み上げて生きてきた人生だ。1つ1つの断片の接着はとても脆弱で、ダルマ落としをしてみれば簡単に抜け落ちてしまうような、危うい関係性の集合体が今の自分だ。

→

小学校の頃、放課後になれば泥団子を毎日毎日磨き上げている友達がいた。何をバカなことをやってるんだろうって思ってた。完成までは何週間もかかるらしいし、何回もひび割れてダメにしてたし、そうして出来上がった作品も正直綺麗なモノじゃなかったし。でもあいつは止めなかった。2年くらいは泥団子作りを楽しんでいた。

そんな彼は今、美大の彫刻学科に通ってるらしい。

→

今からでも何かの習慣を身につけることはできるだろうか。いや無理だ。どうしても熱中できない、続けられない、途中でバカバカしくなってくる。

でも、習慣をはじめる切っ掛けは、案外自分の周りにも転がってるのかもしれない。あの時、自分も泥団子を作り続けていたら、人生少しは変わっていたかもしれないじゃないか。惰性で生きてるから、何かを続けられないんじゃない。惰性で生きてるから、何か続けられるものを見つけられないだけなのだとしたら。

――自分も、変われるのだろうか。

→

→

→

この特集は、或る「私」の物語。些細な切っ掛けを逃さず映画を2日3日と見続け、遂には30日間映画を見続けた人の話。他人の頭の中を盗み見る感覚で、お楽しみいただければ幸いです。

→

映画でも料理でも散歩でもなんでもいい。まずは30日間続けてみれば、人生が変わるかどうかは別としても、1つや2つ得るものはあるでしょう、きっとね。

5月9日[月]

→

また1週間が始まってしまった。そんな授業後に何気なく松ヶ崎のTSUTAYAに入った。店内を見渡していると、後ろから声をかけられ、振り返るとそこには同級生が立っていた。これ面白いよと言って『**ハングオーバー**』という映画を差し出してきた。せっかく薦められたのでこの映画を借りてみることにした。内容はよくあるコメディだったが最後の演出は風変わりで、とても面白かった。

少し淀んでいた私の心はこの映画によってとても晴れやかになった。今日はいい日だ。

→

→

→

5月10日[火]

→

DVDを返却した時に何気なく近くにあったポスターを見ると、そこにはビデオ屋さん大賞TOP10の作品が書かれていた。そして、大賞の横には『**キングスマン**』という文字が。それは偶然にも前にCMで見て気になっていた作品だった。見たいという想いが再燃した私はそれを借りることにした。

見てみると、予測できない展開の連続でハラハラしっぱなしだった。ところどころコメディチックになっていたのも良かった。気になっていた作品と再会できたし、内容も期待以上で満足している。

→

→

→

5月11日[水]

→

無趣味な私は特にやることもなかったので、昨日に続き今日も返却ついでに映画を借りることにした。店内を物色していると、並んでいる新作の中に昔先輩に勧められた『**心が叫びたがってるんだ。**』があった。当時は見るつもりはなかったが、いい機会だと思い私はそれをレジへ運んだ。

内容は多少ファンタジー要素が入っていたが、その部分も含めてうまくまとまって前評判通り感動できた。コミュ障な私に響く強いメッセージ性が感じられた。私もほかの人に勧めようと思える作品だった。

→

→

→

5月12日[木]

→

平日の終わりに近づくにつれ疲労がたまっていく体に鞭打ちながら、映画の返却とレンタルのためTSUTAYAへと訪れた。何か手軽に楽しめる映画はないだろうか。そう考え私が手に取った映画は『**ミニオンズ**』だった。

パッケージに惹かれて借りてみたが実際に見てみると、まさに天真爛漫なミニオンズの可愛さに虜になってしまった。やんちゃで危なっかしい子供を見ているような気分になり、ある時は「危ない!」、またある時は「頑張れ!」と叫んでしまった。なんだかこちらまで童心に帰ったような気分だった。癒しが欲しい時にまた借りたい。

→

→

→

5月13日[金]

→

いよいよ花の金曜日であるがコミュ障の私に彼女なんてものがいるわけもなく、今日も今日とて映画を借りる。旧作100円という甘言に惹かれ物色していると、彼の名作『**スタンドバイミー**』が目に入った。10代20代のうちに見るべき映画!という煽り文句につられて借りてみる。

大人になった主人公の回想という形で物語が語られていく。夏の日の一場面。友達と死体を探すという、バツの悪さを感じる密かな遊び。ユーモアとシリアスの配分が絶妙で、しょうもない下ネタに笑い、主人公の悩みに共感して泣き、様々に心が揺り動かされる作品だった。中学時代に一緒になってバカをやっていた友達が懐かしくなる。久しぶりに連絡でもとってみようかな。

→

→

→

5月14日[土]

→

今日は土曜日だったが課題をするために学校へ行き、そのついでにTSUTAYAへ向かった。いやむしろ、TSUTAYAに行くついでに課題をしたのだろうか。何はともあれ5日続いていたこの習慣が途切れることに、ためらいのような感情が生まれていることを感じた。洋画が続いたので、今日は『**フィッシュストーリー**』という邦画を借りた。4つの時代の出来事が繋がっていくという構成で、テクニカルな伏線回収はとても見応えがあった。しかし映画を見終わった時に感じたのはもっと単純で、小賢しくない爽快感だったように思う。

非常にポジティブな青春映画を予期せずして見たものだから、私はフワフワした気持ちになった。

→

→

→

5月15日[日]

→

日曜日、だらだらと家で過ごす自分に嫌気がさし、映画を借りに行くことにした。恋愛映画でも見ようか。なぜか今日はそんな気分だったので、面白そうなラブストーリーを探して回る。店頭に並んでいるやたらキラキラした恋愛映画のパッケージにくじけそうになりながら、ひとつのタイトルに目を惹かれ、『**ウルトラミラクルラブストーリー**』というのを選んだ。昨日は魚の話ではなかったがこれは恋愛の話で間違いないだろう。

映画はなかなか笑えて、リアルな現実描写と、そこに入れこまれるありえないことが、私を見終わった後不思議な気持ちにさせた。こういう映画もあるのか。彼女の作り方は全くわからなかった。

→

→

→

5月16日[月]

→

今日まで、1週間映画を借り続けた。毎日1本映画を見る、そんな習慣を持つのも良いかもしれない。そんなことを思いながら、今日もTSUTAYAの2階へ向かう。選んだ映画は『**桐島、部活やめるってよ**』。群像劇形式で進む物語はここ1週間見てきた映画には無いものだった。私の高校時代は特段変わったものでは無かったが、登場人物の中の1人に自身の高校時代を重ねてしまった。

この映画は行間を読むことで登場人物の心情を探ることが醍醐味であるように感じた。普段私は小説をあまり読まないが、この作品は是非小説で読んでみたい。

→

→

→

5月17日[火]

→

ここ最近映画をいろいろ見てきて、その魅力の虜になってしまったようだ。今日はどんな映画にしようか、そんな新たな出会いに期待を膨らませながらTSUTAYAに向かった。

今日借りたのは『**アップサイドダウン**』。去年の松ヶ崎祭で上映されていた作品だ。別々の重力が存在する《上の世界》と《下の世界》。その別々の世界で暮らす男女の禁断のラブストーリーという斬新な設定に驚きを感じるとともに、どこか惹かれるものがあった。全体を通してセリフは少なめだったが、《下の世界》に住む男性が、どうにかして《上の世界》に住む彼女に会おうと日々努力を重ねる姿が、美しい映像と壮大な音楽で描かれていて、今まで見た映画とはまた違った魅力を感じた。

→

→

→

5月18日[水]

→

今日も帰り道に足がいつものところへ向かっていた。興味本位で始めたことがすっかり習慣となってしまって元来無趣味な自分としては少し意外だ。最近TSUTAYAは旧作のセールをしているので並んでいる新作に興味をそそられながらも面白そうな旧作を探した。するともうすぐテレビドラマをするという『**時をかける少女**』が目にとまった。ドラマを観ようと思っていたから一足先にアニメ映画版を見てみることにした。

ヒロインの声優が私でも聞いたことのある有名な女優だったのだがあまり上手ではなく、はじめはそのことがすごく気になった。しかし、作品が進むにつれてどんどん世界に引き込まれていき、全く気にならなくなっていった。やはり映画は魅力あるもののようで、より深く映画の世界に引き込まれてしまった。今から明日はなにを見ようか楽しみだ。

→

→

→

5月19日[木]

→

今日はどういう風の吹き回しか、友人たちと一緒に映画を見ることになった。ジャンケンで勝ったやつが映画を選び、負けたやつが金を出すという流れになった。口惜しいことに1人負けしてしまった私は財布を取り出しレジへと向かう。栄えあるジャンケンの勝者である、モデルガンマニアの友人がチョイスした映画は『**アメリカン・スナイパー**』。実在した狙撃手、クリス・カイルの生涯を綴った映画だ。

まさに手に汗握る狙撃シーンでは、まばたきを忘れてしまうほどの緊張感があり、発砲した瞬間、興奮した野郎どもの声が部屋に響くほどだった。一方、この映画は、戦地での快進撃だけではなく、主人公の日常生活にも焦点を置いている。血みどろの戦場とハートフルな家庭が対照的に描かれていて強く印象に残った。残酷なシーンも数多くあり、「自分が主人公の立場ならどうしているだろう」と考えることも多々あった。日本では馴染みの薄い、戦争について考えさせられる良い映画だったと思う。

→

→

→

5月20日[金]

→

昨日友達と映画を見た際に、このところ毎日映画を見続けているという話をした。すると1人がお勧め映画を教えてくれたので、それを借りてみる。映画『**バクマン。**』だ。

私は漫画実写化作品にはあまり期待を抱いていないのだが、この作品は珍しく当たりという気がした。まず画面の澄んだ雰囲気が良い。高校生の活気に満ち溢れたキラキラした雰囲気が上手くカメラに捉えられている。その中で上手く輝くこともできずにくすぶっている男子高校生2人。その2人が出会い、タッグを組み、現役高校生漫画家として週刊少年ジャンプでライバルたちと競い合う姿が描かれる。最初は漫画を描くという地味な行為をどうやって映像で魅せるのだろうと思っていたが、次々と繰り出される演出が上手いことこの上ない。そしてジャンプの三大原則である友情・努力・勝利。これをテーマに展開していく話にぐいぐい引き込まれ、最後には私も主人公たちと一緒になって叫んでしまった。忘れかけていた熱い気持ちを思い出させてくれる作品だった。

→

→

→

5月21日[土]

→

提出を直前に控えた課題をやるために、最近は夜遅くまで学校へ残る日が多くなった。本来ならば、TSUTAYAに行き、映画を選び、それを観る時間などないのかもしれないが、私の1日の中にこれらのルーティンをこなす時間と体力は自然と確保され始め、自分がこの奇妙な習慣に侵されていることが確かに感じられる。思えば、自分にとって「毎日続けること」は常に困難だったように思う。受験勉強もサボる日があったし、筋トレもすぐにやめた。そう考えると、13日間休まず毎日映画を見続けたことが急に誇らしく思えた。

今日は、『**2001年宇宙の旅**』を借りた。かなり難解で解釈に苦しむ映画だと聞いていたが、まさにそんな感じだった。序盤はストーリーを把握しようと努めていたのだが、苦行のように思われたので途中で諦め、以降はボーっと画面を見ながら流れる音楽を聴いているだけのようになった。すると途端に心地よいものを見ている気持ちになり、これは新しい映画の見方を見つけたなと思った。

→

→

→

5月22日[日]

→

今日は課題を早めに切り上げ、DVDを借りた後、いつもより早く帰路についた。今日借りたのは、黒澤明の『**七人の侍**』である。英語の先生がぼそっと言った、「日本人は日本を知らない」という言葉を聞き、日本を代表する映画監督の映画をまだ見たことがないことに気づいたのだ。3時間を超える長尺映画ということを知っていたから、見るなら今日と決めていた。

始まった途端、見終わることができるか少し不安に駆られた。覚悟してはいたものの、白黒の画面にノイズの多い音声の映像を見るのはひどく大変である。それでもここまでの習慣を中途半端にするのが嫌で、耳をすませながら画面を眺めた。しかし1時間が経過した頃、白黒もノイズも全く気にせず夢中になっている自分がいた。3時間半はあっという間であった。傑作と言われる理由は非常にシンプルだった。純粋に面白いのである。素晴らしい作品は時代など問題にしないということを知り、いつか自分がそういうものを作り出すことを想像しながら眠りについた。

→

→

→

5月23日[月]

→

授業終わりに製図室へ向かうはずの私の足はここ2週間通い続けているレンタルビデオ店に向かっていた。私が映画を見続けるようになってから、早くも15日目。2週間映画を毎日見続けることによる変化は何か私に起こっただろうか。初めに映画を友人に勧められた時にはこんなに長い間、映画を見続けるようになるとは思ってもみなかった。

そんなことを考えていると、1日目に借りた映画の続編、『**ハングオーバー!!**』が目に留まった。この映画を見る生活を意識するようになってから見てみたいと思っていたのだが、ついに今日借りることができた。シリーズものの第2部は大抵が駄作と言われたりもするが、そんな期待を良い意味で裏切ってくれた。前作に引き続きスタッフロールの演出にも興があり、前作を見ていたからこそ笑える描写などがちりばめられていた。コメディ映画を見ることによって心が軽くなり、映画を観終わったころには自然と課題を行うために私は製図室に向かっていた。

→

→

→

5月24日[火]

→

課題に取り組んでいても、頭のどこかで今日はどんな映画を見ようか、そんなことを考えている自分がいることに驚いている。課題で映画を見る余裕なんてないはずなのに。習慣というのはなかなか変えられない。しかし、それは決して悪いものではないと思う。気付けば私は、自分の生活の一部となってきているこのルーティーンを壊すことを、恐れるようにすらなってきた。

キリのいいところで課題を終わらせた私は、帰る途中でいつものように映画を借りた。今日借りたのは『**マエストロ!**』だ。メインヒロインとしてmiwaさんが出演されているのが決め手となったと言っても良い。私自身アコギを持っていてたまに弾くからだ。映画のストーリー自体はありきたりなものだったが、演技力と音楽には圧倒された。この映画は演奏シーンが長く必然的にセリフの無い時間が多かったのだが、表情や体の動きだけで全てを表現していて、俳優はセリフだけじゃないんだというのを痛感させられた。指揮指導に世界的指揮者の佐渡裕氏、エンディングテーマに盲目ピアニストの辻井伸行氏が関わっているとあとから知り、この映画に使われている音楽の完成度の高さにも頷ける。映画の魅力はストーリーだけじゃない。そんなことを感じられた作品だった。

→

→

→

5月25日[水]

→

今日は授業での発表のために会議をやっているうちに時間が遅くなってしまったので、下宿の友達の家で晩御飯を食べることになった。どうせならと思い、その友達と食材を買いに行くついでに一緒にDVDを借りることにした。幸い彼も映画鑑賞が好きらしく、どれを見るか2人で店内を歩き回った。いつも1人で散策しているところを2人で好きなことについて話しながら歩くというのは今まであまり経験したことがなく、とても新鮮で充実した時間だった。私の生活は映画を見ることによって次第に満たされているように感じる。元々無趣味で友達と好きなことについて会話したことも少なかったため楽しい時間だった。選んだ映画は『**ピース オブ ケイク**』。主演が友達が好きな女優だということだった上、私も以前見た映画に出ていた人だったので興味を持ち借りてみることにした。

映画の内容は男2人でご飯を食べながら見るにはなかなか厳しい内容だった。表紙からは普通のロマンス映画だと察してその時点で少し自分たちで見るものではないかと思ったのだがまた別のベクトルで見るのが辛い物語だった。あまりこのような内容の映画を見ることはなかったので驚くと同時にまた1人で私が見るのに耐えられる状態で見たいと思った。同じ映画を何度も見るとその時々によって感じ方も変わるものなのだ。一度見たものをまた見るのも、悪くはないはずだ。

→

→

→

5月26日[木]

→

授業を終えると、今日もおなじみのレンタルビデオ屋で面白そうな映画を探す自分がいる。中毒みたいになってきたな、と自嘲気味に考えてしまい、自然と苦笑いが浮かんだ。しかし、趣味と言っても過言ではないものを新しく見つけることができた事実に喜びを感じ、誇りに思い始めているあたり、私は少しひねくれ者なのかもしれない。

今日借りたのは、『**知らなすぎた男**』というコメディ映画だ。英文を直訳したような題名と、古めかしく少し間抜けなパッケージに、不思議と心を奪われてしまった。内容は所謂勘違いもので、意図せずして主人公がドタバタに巻き込まれていくという、極めて典型的なものだ。しかし、だからこそストーリーを把握しやすく、笑いどころがわかりやすかった。展開自体は、現実では絶対にありえないだろ、と突っ込みを入れたくなる程、突拍子もないが、異常なほどに三枚目な主人公のおかげで、なぜか調和しているように感じた。やや古いユーモアや、ややお下品なギャグ、アメリカンジョーク、そして鼻で笑ってしまうほどの衝撃のラストなども見どころだろう。難しいことを考えずに見られる、コメディ映画のお手本のような作品だった。

→

→

→

5月27日[金]

→

無事に課題を提出し、KITショップでのバイトを終えると既に11時だった。くたくたに疲れてはいたが、映画を借りに行く。これから終電で家に帰っても日付を跨いでしまうのだが、ここ数週間続いている奇妙な習慣を途切らせたくなかった。あるいは強迫観念になりかけているのかもしれない。充血した目で店内を歩く私を見て店員は怯えていた。赤と白、そして黒色のコントラストが効いたパッケージがぱっと目に入ったので深く考えずにそれを借りた。

『**プラダを着た悪魔**』。一流のファッション雑誌であるランウェイ。その編集長の第2秘書として縁もゆかりも興味もなかったファッション業界にやってきた主人公。観始めてすぐに、これは私には似合わないおしゃれ映画だと悟る。しかし無理難題ばかりを口にする上司に応えるため奮闘する主人公アンディを見ているうちに、私は自然とアンディと課題に打ち込む自分とを重ね合わせていた。鬼上司への不満を爆発させた主人公に対して同僚が放った言葉、「君は努力していない。愚痴を並べてるだけだ。」は、私の心にもぐさりと刺さった。きらびやかな外見に圧倒されていたが、この映画は仕事や人生に関する名言で溢れている。流れるような展開に夢中になり、見終えた時には不思議と体の疲れがとれていた。また来週からも頑張ろう、そう思えた。

→

→

→

5月28日[土]

→

今日はとても暇だったので、いつもより長い時間TSUTAYA店内を見て回った。1日1本映画を見続けたとしても、ここにある映画を全て見終わるのには途方も無い時間が必要だということが改めて分かり、圧倒されるとともに少し満足した。

『**レナードの朝**』は何度も見たことがあったが、好きな映画ではなかった。幼い頃、ロビン・ウィリアムズが好きな父の隣で、半ば強制的に何度も見させられたので、私はこの映画を煩わしい教育ビデオのように記憶していた。その切ないストーリーも、私の心をいつも沈ませた。今日この映画を選んだ理由は、なんとなく、と言う他ないのだが、強いて言うならば暇だったからかもしれない。時間の余裕から生まれた心の余裕が、私を過去のトラウマへと向き合わせたような気がする。数年ぶりに見たこの映画は、記憶の中のものとはかなり違っていた。とても切なく悲しいと感じていたストーリーも、今日はかなり前向きなものに思えた。同じ映画でも、自分の状況次第では、違った作品のように感じられるのだろう。そう考えると、私がこれから観るべき映画の選択肢は文字通り無限に残されていることが分かり、私はまた満足した。

→

→

→

5月29日[日]

→

今日もまたTSUTAYAの店内を歩いていたら、店の奥にひと棚だけ作られたドキュメンタリーのコーナーの前で足が止まった。全く興味を引かれたことのないジャンルであったが、この習慣も長くなってきたこともありいつもと違うものを借りてみたくなったのだ。映画に求めるものが非日常の体験であったり、憂さを晴らすための笑いであったりしたのが、変わってきたのかもしれない。社会問題を取り上げた重い内容のものもあったが、比較的見やすそうで興味をそそられた、『**世界の果ての通学路**』というものを借りた。映画は、世界各地の僻地に住み、学校へ行くために長い長い通学路を何時間もかけて歩く小学生ほどの年齢のこどもたち4組の通学風景を追ったものだった。サバンナを駆け抜け、パタゴニアの山を越え、彼らは学校へ通っていた。彼らは教育が自分の未来を切り開くと信じていた。目は輝いていて、辛さは微塵も感じられなかった。これは通学が大変なこどもたち、ではなく希望を持ち生き生きと暮らすこどもたち、を映したものであるのかもしれない。親に学費を払ってもらい、文句を言いつつ大学に通っている自分を考えた。当たり前とは当たり前でなく、幸せとは自分次第なのだと実感を持った。

映画というフォーマットを通し、他人の人生の一部を経験することを繰り返した結果、自分を相対化することが少しずつできるようになってきた気がした。3週間での私の変化を友人はまだ気づいていないだろう。秘密とも言えないようなものであるが、そう考えたら不思議な高揚感を覚えた。

→

→

→

5月30日[月]

→

最近では、レンタルビデオ店で何を借りるか決めて借りることが多くなってきたような気がする。それも今まで耳にしたことのある作品ではなく、その場で悩んで自分で選び取っている。今日はレンタルCDなども見たりしながら、借りる映画を選んだからか1時間近くもレンタルビデオ店にいた。そんななか本日借りたのは『**LIFE !**』。空色が基調とされた美しいパッケージに惹かれて手に取った。見てみると、監督と主演が同じ人だということに気付く。さらに謳い文句は、“この映画には「!」がある。”なるほどと思いレジへ運ぶ。

吹き替え版を見ようと思ったが主人公がなぜか関西弁で俳優とミスマッチが甚だしかったために、開始3分で日本語字幕版に切り替えた。内容はというと空想世界に思いを馳せるさえない男がある事件をきっかけにとってもドラマチックな冒険をするようになる。今まで主人公が空想していたことが次第に現実になっていく様は視聴者側も一緒に冒険しているような気になる。段々とアクティブになっていく主人公の行動が結果に結びついていくこの作品はまさに「!」に溢れていた。これは、無趣味だった私が毎日映画を借りるというアクションを起こしたことによって自身に変化が起きてきたことに通じているように感じてならない。これまで、何かにつけて中途半端だった私だがこの習慣によって自信がつき、忙しい時でも目の前の課題に対して高いモチベーションのままそれらをこなすことができるようになった。この映画によって私に起きた確かな変化に改めて目を向けるようになった。

→

→

→

5月31日[火]

→

TSUTAYAでは旧作でも店員のおすすめする作品を紹介文とともに表紙が見えるように陳列している（後で調べたのだが面陳というらしい）。そんな面陳されている作品を中心に見て回った中で手に取ったのは『**リアル・スティール**』だった。

ここまで熱くなった格闘映画はあっただろうか。まるでボクシングをリングのすぐそばで見ているような迫力に興奮を隠しきれなった。しかしこの映画の良さはそんな迫力のあるアクションシーンだけではない。親子の絆というドラマも丁寧に描かれている。最初は対立しあう2人だが、ロボットを通じてだんだん信頼関係を築いていく親子の姿に、ありがちな展開だがやはり胸が熱くなってしまう。最後にロボットと共に戦う父親の勇姿を見つめる息子の目がとても印象的だった。そういえば、最近まともに父親と会話することが減ってきた気がする。さすがにこの映画のようにとはいかないかもしれないが、せめて会話する機会ぐらいは作ろうかな、そんなことを思った。内容以外に特に書き残しておきたいことがある。それは特典映像で知ったことなのだが、ロボットがフルCGなんかではないということだ。製作総指揮の1人であるスティーブン・スピルバーグの助言で実物大のロボットを製作し、パペット使いによって実際に演じさせていたというから驚きだ。今は何でもCGでできてしまう時代だが、実物を作ることでリアルさが増すのは間違いない。映画館で映画を見るのも良いが、こういう特典映像はDVDでしか見ることができない。今になって映画の別の楽しみ方を発見したような気がする。

→

→

→

6月1日[水]

24

→

今日もなにを見ようというアイデアは全くなかったが、TSUTAYAの方へ向かった。習慣とは恐ろしいものである。店内を回っているうちに過去の思い出が蘇る作品があった。『**サウンド・オブ・ミュージック**』。最も有名なミュージカル映画の1つだ。私は中学生の頃音楽の授業でこの映画を見た。しかし当時は友人と話したり眠ったりしていてあまり真剣には見ていなかった。ただ、その印象深い歌の数々はとても頭に残っておりつい手に取ってしまった。当時はただ歌を歌っているというイメージしかなかったが、もう一度見れば何か見方が変わるかもしれない。

実際想定していたものとは懸け離れた内容だった。ナチ党が広まり始めた第2次世界大戦前という暗い時代設定とそれらの暗さに対する希望という難しい題材をミュージカル映画ならではの表現の仕方がなされていたように思う。中学生当時に見ていた作品とは全く別物のように感じられ、自らの成長を感じるとともに何度も鑑賞することの重要性を再確認した。また、私はミュージカル映画を真剣に見たのは初めてと言っていいくらいで知識も全くなかった。しかし、この映画はそのようなことは関係なく実際の演技にはできない歌の素晴らしさを教えてくれるものだった。最近の映画は配役で話題をとることに必死になってしまって音楽は二の次、三の次になっているのではないだろうか。この作品によって私は映画を見る別の視点、そして審美眼を得たように思われる。いまからまた次の映画を見るのが待ち遠しい。

→

→

→

6月2日[木]

25

→

今日は平日でありながら、予備日のため大学が休みになるという夢のような日だ。ぜひ、家でゆっくり映画を見ようと思い、お決まりの場所へと足を運んだ。「何かめぼしいものはないか。」と店内を歩き回っていると見覚えのあるキャラクターが目に飛び込んできた。日本人の大半が知っているであろう、パックマンである。これでもゲームは人並みに好きなので、興味を持った私はこの映画、『**ピクセル**』を借りることにした。

内容は、冴えない主人公が唯一の特技を生かして世界を救う戦いに身を投じる、と言ってしまえばありきたりなストーリーである。しかし、襲ってくる相手がレトロゲームの恰好をしており、立ち向かう主人公が元ゲーマーのおっさんであることに面白いと思った。また、戦うシーンでは、本来2Dであるゲームをルールやゲーム性が破綻しないように3Dへと昇華していることにも感嘆を覚えた。全体的に楽しめる映画だったが、ゲームが得意である設定が生かせていない描写や、べたすぎる展開など改善できる点も見つけられた。今までは、こういった批評じみたことはあまりできなかったのだが、それができているということは、映画の見方に変化が起きているのだと思う。主人公は、レトロゲームをうまくプレイできるという特技が、元はと言えば趣味があったからこそ世界を救うために戦うことができた。もともと無趣味だった私が、映画鑑賞という趣味を持てたことは、きっと良いことなのだろう。世界は救えなくとも、そのうち何かの役に立つかもしれないと思うから。

→

→

→

6月3日[金]

26

→

映画を見るのが習慣になってきてからも、明るめの作品を好んで観ているなと思い、今日は敢えて重い映画を借りてみることにした。以前ドキュメンタリー作品を借りた時は比較的観やすそうなものを選んだが、今日はなんとなく世界の問題と向き合ってみたい気分だったのだ。自分が誰かの役に立てるかもしれないと、昨日考えたのも関係しているのだろうか。店員のオススメ作品でもある映画、『**戦場のピアニスト**』を手に取った。

舞台は第2次世界大戦下のワルシャワ。ナチスによるユダヤ人虐殺が題材だ。目を覆いたくなるような凄惨な場面がほとんどだったが、見終えてから一番驚き、また怖かったのはこれが全て実話だということだった。映画の中で主人公はひたすらに無力であり、目の前で起こる理不尽な暴力や死をただ見ていることしかできない。弾圧と貧困に耐え忍ぶしかないそんな人々の姿には妙な説得力があった。実在したユダヤ系ポーランド人のピアニスト、シュピルマンの体験記を基にして作られ、そして監督もホロコーストを経験したユダヤ人であることが、この映画にあふれんばかりのリアリティを生み出したのだろう。主人公は生き延びるために逃げ回り、大好きなピアノを弾くこともうできない。そんな彼をずっと見ていたからこそ、映画のラストでピアノを演奏するシーンには言葉を超えたものを感じた。ほとんど体力が残っていないのに、憑かれたかのように一心不乱にピアノを弾く主人公。戦争映画は確かに重かったが、これを見通したことで自分の中で何かが変わった気がする。とりあえず、この作品は人にお勧めしたい映画となった。

→

→

→

6月4日[土]

27

→

『**ドラゴンタトゥーの女**』という映画に関して私が持っていた印象は、レッドツェッペリンの曲が流れるセリフもナレーションも一切ない予告映像によるものが全てだったので、グロとエロが際限なく続く本編は、少し想定外だった。しかし、決して期待を裏切られたという気持ちはなく、シリアスな展開と冷たさを感じる映像に私は常に緊張し、終始手に汗を握りながら見ていたように思う。舞台は冬のスウェーデンで、北欧のもつ寒々しく暗い雰囲気が、ストーリーの緊張感を助長している。また、そんな温かみの無い雰囲気の中で、一際オーラを放っているのがルーニー・マーラ演じる「ドラゴンタトゥーの女」リスベットだろう。とても健康的とは言えないガリガリの体に施されたドラゴンのタトゥーと無数のピアス、そして彼女の鋭利な視線。本格推理小説が原作でありながら、この映画が恋愛的なエピソードに重点が置かれているように感じたのは、そんな彼女の魅力的なキャラクターによるところだったのだろうと思う。

毎日こうして映画の中身を咀嚼し直してみるのはとても意義のあることだろう。面白かった、つまらなかった、ではよほど表現することのできない複雑な心の動きを、少しずつ整理していく作業は、これまで自分の中に置き去りにしていたあらゆるものと向き合い、触れ合っているかのようだ。現実とは到底違った映画の世界から、自分の未知と向き合う契機を得たことは、きっと不自然なことかもしれないが、4週間近く映画を見続け、毎日のように映画による、または習慣による発見や変化を得てきた今では、この不自然さも「映画の力」という一言で説明できるように思う。

→

→

→

6月5日[日]

28

→

やはり、ディズニーは裏切らない。政治家も清純派タレントも大手企業も信用できないこの世の中、絶対的な信頼がおけるのは自分の母とディズニーくらいだろう。今日の私はものすごく疲れていた。課題の締め切りが近かった上に、バイト先で人が足りないと言われいつも入らないシフトに入った。それだけならまだ良かったが、私は見てしまったのだ。密かに好感を抱いていたバイト先の子の、その可憐な手の上で光る指輪を。自分でも予想外なほどショックを受けた。裏切られたような気がした。それを見てから急にどっと疲れを感じ、何のやる気もなくなった。惰性でTSUTAYAへと向かうものの、昨日まで見たいDVDがたくさん並び輝いて見えた棚が、輝きを失っていた。どうせ、途中で誰かが裏切るのだろう、と卑屈な偏見としかいいようのないつぶやきを心の中でしていた。結局、借りたのはディズニーの『**シュガー・ラッシュ**』だった。ハッピーエンドを求めた結果だ。

見始めると、美しいグラフィックとスピード感のあるストーリーによりすっかり入り込んでしまった。ゲームの中の世界で、悪役として生まれたラルフはみんなに愛されるヒーローになろうと悪戦苦闘する。バグを持っているヴァネロペはゲームの表舞台に出られない。もどかしい気持ちを持つ2人に自分を重ね、私は笑って泣いた。ディズニーらしい最高のハッピーエンドで心地よい気分で見終わった。気分が落ち込んだときは思いっきり泣くと良いとよく言うが、本当にその通りだった。胸の中のわだかまりが少しとけたのを感じた。この、画面の中に救いを求める行為が自分の中では自然に行われたことに少し嬉しさを感じた。今までは感情の行き先を見失ったとき、友達に愚痴を言ったり態度で表したりしていた。今日は映画という存在をひとりの頼れる友人のように感じた。

→

→

→

6月6日[月]

29

→

今日は大学でも特にこれといった面白いこともなかった。あったのはオルタスで食べた昼食が美味しかったことぐらいだ。そんなありきたりな日常を過ごした日にはちょっと変わった映画を観たい。今日は先輩に勧められていた『アタックオブザキラートマト』という映画を借りようと思い、TSUTAYAに向かった。探したところ見当たらなかったので店員さんに声をかけて、探してもらったが、VHSでDVD化されていないとの返答があった。ならばと思い、予てから友人から名前を聞いていた『**ラバー**』という作品を借りることにした。何でもタイヤが念力を使い人を殺すという映画らしい。

さして期待もせずに見始めると、繰り返されるNo Reasonという言葉。「この映画は“理由がないこと”へのオマージュである」などいきなり視聴者に向けた宣言。今まで見てきた映画とは一線を画すB級感。それなのに深読みすればするほど面白いと思えるような映画の構成。要所要所に使われる小気味良い音楽の数々。完全に騙しに来ている予告映像。最初はただのパニック映画かと思っていたが、これは私が思うに、製作陣による映画界への皮肉めいたものを映画によって表現したのだと思う。ここまで来て言えることは、29日目にこの映画に出会ったことは私にとって幸運だったように思える、ということだ。こういった映画の良いところは、ある程度有名な映画を観てきた人が新しい境地に足を踏み入れる第一歩になることにあるのだろう。こういったニッチを狙う作品を楽しむことができるようになったことは、今までの私からは想像もつかなかったことなので、素直にうれしい。

→

→

→

6月7日[火]

30

→

TSUTAYAに通うようになって、30日目になった。授業終わりになんとなくTSUTAYAに寄ったことから始まったこの習慣、とうとうここまで来たかというのが率直な感想だ。私は何に対してもあまり興味を抱かないタイプだったので、どうせ三日坊主なんだろうなと最初の頃は思っていた。でも、数日もすれば映画の魅力にどっぷりはまってしまっていた。それは、日々電車に揺られながら大学に通い、いつもの部屋で講義を受け、バイトがあった日はくたくたになって帰ってくる。そんな平凡な日々の中の数少ない刺激だったからかもしれない。アクション、コメディ、SF、ヒューマンドラマ、などなど洋画邦画問わず本当にいろんなものを見てきたと自分でも思う。毎日違う映画に出会い、毎日違う体験をしてきた。この30日間は大学に入学してから最も濃かったと言っても過言ではない。

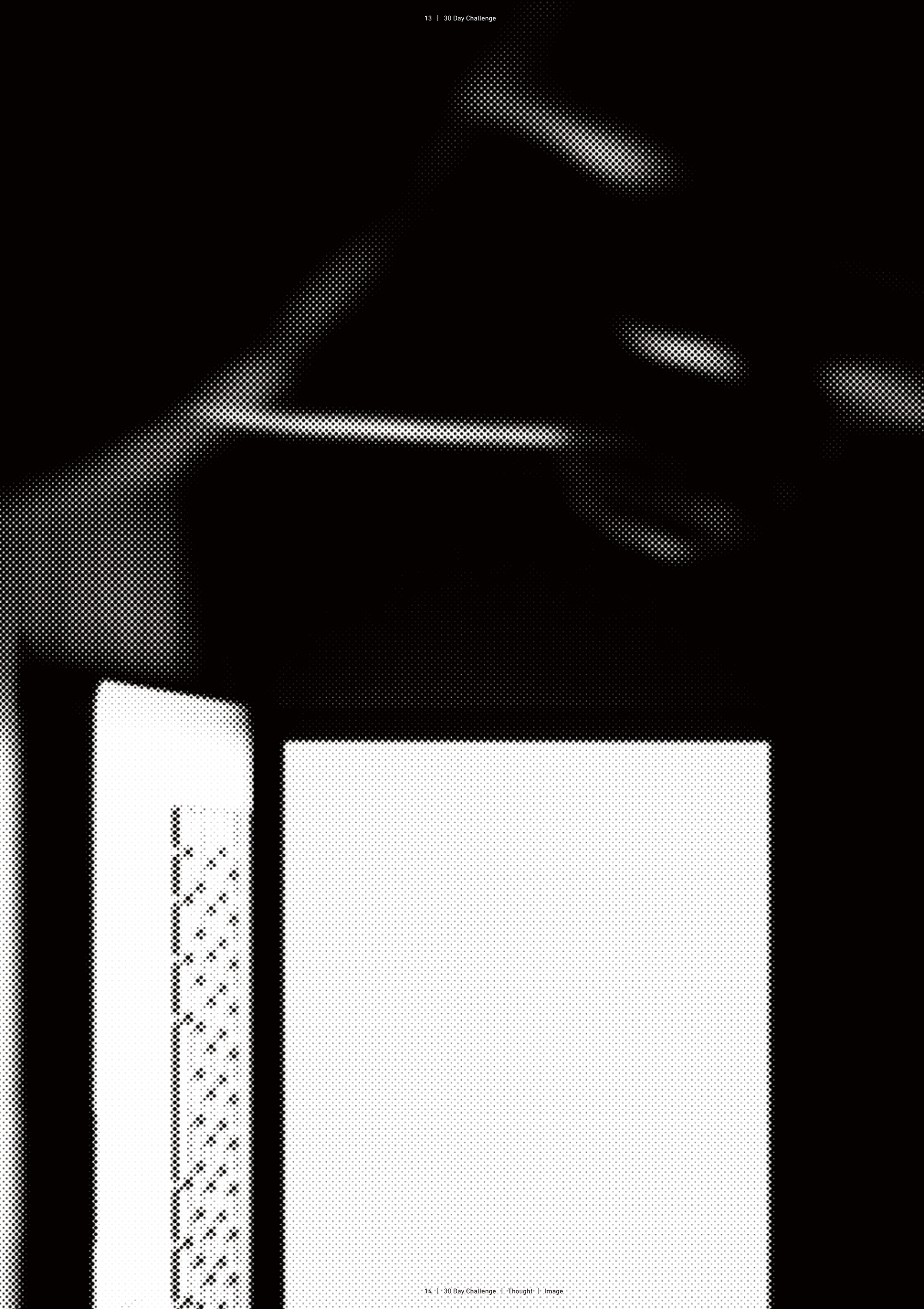
今日借りた映画に登場する主人公は、映画を見始める前の私にどこか似ている、そんな気がした。映画のタイトルは『**イエスマン**』。作品全体としてはやることなすこと全てが大げさでバカっぽい、これぞアメリカンコメディって感じだった。シリアス要素は無く、本当に最初から最後まで笑い飛ばせるものだった。しかし、この作品は生きていく上で本当に大切なことを教えてくれるようなそんな作品でもあった。主人公は最初は様々なことにNOと言い、友人の誘いを断り、職場にも変化を求めない。そんなある日、怪しげなセミナーでいかなる時もYESと答えるという契約を結ばされたことから、彼の人生が一気に明るくなっていく、そんな作品だ。本当にご都合主義のストーリーで、現実はこんなにうまくいくはずがないと思いつつも、NOと言うことで逃してきたチャンスがもしかしたら私にもあるのではないか、そう思わざるを得ない強いメッセージ性を感じた。今思い返してみれば確かに、バイトや課題で忙しいことを言い訳にして、友人の誘いを断ったことが何度もある。時間が無いからと言って挑戦することを諦めたことだって多々ある。この映画を見て、果たしてそんなことでいいのだろうかと考えさせられた。「忙しい」「時間が無い」そんな言葉で自らチャンスを潰したり、ひいては新しい自分になることを諦めたりはしていないだろうか。そう思うと、つい1ヶ月ほど前の退屈な日々は、自分が変わろうとせずにいた結果であるようにも思えてきた。大学生という高校生よりも自由があり、社会人の様に縛られているわけでもない今が自分の人生を変える好機だ。全てYESと言うのは難しいかもしれない。でも、NOと言う前に一度考えてみることから始めよう、そんなことを思った。

そして、やはり映画を見るという習慣で充実した日々を過ごしているここ最近は、とてもいい傾向にあるのだろう。課題提出前という忙しい時でも時間を捻出して映画を見続けてこれたのは本当に誇らしいと思う。今後もこの習慣を続けていきたいし、他の新しいことにも積極的に挑戦していきたい、今はそう思う。

→

→

→



[凡例]

タイトル

TITLE

———

–上映時間
–初公開年月日
–ジャンル
–監督
–出演者
→
→
→

ハングオーバー!
消えた花ムコと
史上最悪の二日酔い

THE HANGOVER

———

–100分
–2010.07.03
–コメディ／ミステリー
–トッド・フィリップス
–ブラッドリー・クーパー
エド・ヘルムズ
ザック・ガリフィナーキス
ヘザーグレアム
→

キングスマン

KINGSMAN : THE SECRET SERVICE

———

–129分
–2015.09.11
–アクション／スパイ
–マシュー・ヴォーン
–コリン・ファース
タロン・エガートン
マイケル・ケイン
→

心が叫びたがってるんだ。

The Anthem of Heart

———

–119分
–2015.09.19
–青春／ドラマ
–長井龍雪
–水瀬いのり
内山昂輝
雨宮天
細谷佳正
→

ミニオンズ

MINIONS

———

–91分
–2015.07.31
–コメディ
–ピエール・コフィン
カイル・バルダ
–多田野曜平
青山穣
佐藤せつじ
→
→
→
→

スタンドバイミー

STAND BY ME

———

–89分
–1986.08.08
–ヒューマンドラマ
–ロブ・ライナー
–ウィル・ウィトン
リバー・フェニックス
→

フィッシュストーリー

Fish Story

———

–112分
–2009.03.20
–ドラマ
–中村義洋
–伊藤淳史
高良健吾
多部末華子
→

ウルトラミラクル
ラブストーリー

Bare Essence of Life

———

–120分
–2009.06.06
–ドラマ
–横浜聡子
–松山ケンイチ
麻生久美子
→

桐島、部活やめるってよ

The Kirishima Thing

———

–103分
–2012.08.11
–青春／ドラマ／学園
–吉田大八
–神木隆之介
橋本愛
東出昌大
→

アップサイドダウン
重力の恋人

UPSIDE DOWN

———

–109分
–2013.09.07
–ロマンス／ファンタジー／SF
–ファン・ソラナス
–キルステン・ダンスト
ジム・スタージェス
ティモシー・スポール
→

時をかける少女

The Girl Who Leapt Through Time

———

–100分
–2006.07.15
–青春／ファンタジー／ロマンス
–細田守
–仲里依紗
石田卓也
板倉光隆
→

アメリカン・スナイパー

AMERICAN SNIPER

———

–132分
–2015.09.19
–ドラマ／戦争／アクション
–クリント・イーストウッド
–ブラッドリー・クーパー
シエナ・ミラー
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→

バクマン。

BAKUMAN

———

–120分
–2015.10.03
–青春／ドラマ
–佐藤信介
–佐藤健
神木隆之介
→

2001年宇宙の旅

2001:A Space Odyssey

———

–139分
–1968.04.11
–SF
–スタンリー・キューブリック
–ケア・デュリア
ゲイリー・ロックウッド
ウィリアム・シルヴェスター
→

七人の侍

Seven Samurai

———

–207分
–1954.04.26
–時代劇／アクション／ドラマ
–黒澤明
–三船敏郎
志村喬
木村功
→

ハングオーバー!!
史上最悪の二日酔い、
国境を越える

THE HANGOVER PART II

———

–102分
–2011.07.01
–コメディ
–トッド・フィリップス
–ブラッドリー・クーパー
エド・ヘルムズ
ザック・ガリフィナーキス
→

マエストロ!

Maestro

———

–129分
–2015.01.31
–ドラマ／音楽
–小林聖太郎
–松坂桃李
miwa
西田敏行
→

ピース オブ ケイク

Piece of Cake

———

–121分
–2015.09.05
–ロマンス
–田口トモロヲ
–多部未華子
綾野剛
→

知らなすぎた男

THE MAN WHO KNEW TOO LITTLE

———

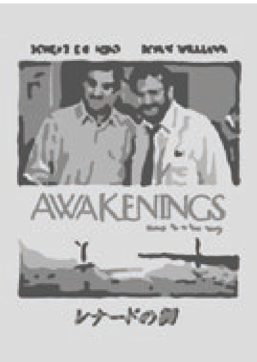
–94分
–1998.11.21
–コメディ
–ジョン・アミエル
–ビル・マーレイ
ピーター・ギャラガー
ジョアンヌ・ウォーリー
→
→
→
→
→
→
→
→
→

プラダを着た悪魔

The Devil Wears Prada

―――

—110分
—2006.06.30
—コメディ／ドラマ／ロマンス
—ローレン・ワイズバーガー
—メリル・ストリープ
アン・ハサウェイ
→



レナードの朝

AWAKENINGS

―――

—120分
—1991.04.05
—ドラマ
—ペニー・マーシャル
—ロバート・デニーロ
ロビン・ウィリアムズ
ジュリー・カヴナー
→

世界の果ての通学路

On the way to school

―――

—77分
—2014.04.12
—ドキュメンタリー
—パスカル・プリッソン
→

LIFE!

THE SECRET LIFE OF WALTER MITTY

―――

—114分
—2014.03.19
—ファンタジー／ドラマ／アドベンチャー
—ベン・スティラー
—ベン・スティラー
クリステン・ウィグ
アダム・スコット
→

リアル・スティール

REAL STEEL

―――

—128分
—2011.12.09
—ドラマ／アクション／ファミリー
—ショーン・レヴィ
—ヒュー・ジャックマン
ダコタ・ゴヨ
エヴァンジェリン・リリー
→
→
→

サウンド・オブ・ミュージック

The Sound of Music

―――

—174分
—1964.06.26
—ミュージカル／ファミリー
—ロバート・ワイズ
—ジェリー・アンドリュース
クリストファー・プラマー
エリノア・パーカー
→

ピクセル

PIXELS

―――

—105分
—2015.09.12
—コメディ／アクション／SF
—クリス・コロンバス
—アダム・サンドラー
ケヴィン・ジェームズ
ミシェル・モナハン
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→

戦場のピアニスト

The pianist

―――

—148分
—2003.02.15
—ドラマ／戦争
—ロマン・ポランスキー
—エイドリアン・ブレディ
トーマス・クレッチマン
→

ドラゴンタトゥーの女

The girl with The dragon tattoo

―――

—158分
—2012.02.10
—ミステリー／サスペンス
—デヴィッド・フィンチャー
—ダニエル・クレイグ
ルーニー・マーラ
→

シュガー・ラッシュ

WRECK-IT RALPH

―――

—101分
—2013.03.23
—ファンタジー／アドベンチャー
—リッチ・ムーア
—山寺宏一
諸星すみれ
花輪英司
→

ラバー

RUBBER

―――

—82分
—2012.01.21
—ホラー／コメディ
—カンタン・デュピュー
—スティーヴン・スピネラ
ロキサーヌ・メスキダ
ジャック・プロトニック
→

イエスマン
“YES”は人生のパスワード

YES MAN

―――

—104分
—2009.03.20
—コメディ／ドラマ
—ペイトン・リード
—ジム・キャリー
ゾーイ・デシャネル

→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→

映画情報は「allcinemaONLINE」[http://www.allcinema.net]から引用しました。
→
→

パッケージのイラストは実際に陳列されている物に準じています。商品検索時にご活用ください。
→
→
→

［オススメ作品］
→
最後に、特に他人にオススメできる作品として、30作品中7作品をピックアップしてみました。新しい習慣をいきなり見出すのは難しいものです。これらのオススメ作品を皮切りに、まずはあなたも30日間映画を見続けてみてはいかがでしょう。
→
→
→

LIFE!

―――

惰性で送る日々に何となくフラストレーションを感じる。行動を起こすことが人生を変えるキッカケとなる。頭では分かっていてもなかなか行動できない人への啓発となる一作。
→
→
→

リアル・スティール

―――

ストーリーが分かりやすく、純粋に展開を楽しめる。また、ATOMが人間の動きを模倣するシーンはどこか可愛らしく、ロボットが苦手な人にもおすすめできる作品だ。
→
→
→

心が叫びたがってるんだ。

―――

絵が綺麗でストーリーもわかりやすい青春モノ。あっさり見ることができる一方で、はっきりとしたメッセージ性を感じさせる。アニメ映画が苦手な人にも勧めたい。
→
→
→

アメリカン・スナイパー

―――

一触即発の戦闘シーンにはハラハラドキドキすること間違いなし。脚色はもちろん入っているが、日本人には馴染みの薄いリアルな戦争について考えさせられる。
→
→
→

プラダを着た悪魔

―――

10年も前の作品なのに、色褪せない魅力がある。（きっと）誰でも楽しめる映画というのはとても貴重だと思う。観たことがない人は、是非観るべき。
→
→
→

レナードの朝

―――

深い闇のような夜を抜け出した先に生まれた新しい命のごとき太陽、あるいはそれがもたらす冬の朝の澄んだ空気のようなカタルシスがあるので、とりあえず見て欲しい。
→
→
→

七人の侍

―――

何はともあれ、見てみて欲しい。そして三船敏郎の魅力にしびれて欲しい。日本映画史に燦然と輝く作品である。一度見たら、世界のクロサワにきっと夢中になるだろう。
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→
→

特集：
「30日間映画を見続けた人の話。」
おしまい。
→